

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 番外編

「会津の文化人」宮城三平翁の偉業

文：矢部 征男

「会津の文化人」とも称される宮城三平翁は、文政3年（1820）、奥川吉田組郷頭家の長男として生まれました。7歳にして館原代官所（喜多方市山都町）において村役人としての教育を受け、16歳で会津藩校「日新館」に入り文武両道の教育を受けています。さらに向学心に燃え、会津藩の特別推薦により江戸幕府最高学府である「昌平黌」へと進んでいます。5年後帰郷し郷頭職を継ぎますが、やがてその職を末弟に譲り、伊勢・熊野・京都から広島へと127日間の西遊を行います。

戊辰戦争後、明治政府の誕生により若松県の地租改正係や『地誌提要』編纂係を命じられ、そのため県内各地を踏査し、のちその一部は『会津温故拾要抄』として出版されています。

また、明治11年（1878）に肝煎の職を辞したのち、全国の山稜参拝のため三度にわたる西遊を行っています。最初は133日間、二度目は明治18年（1885）に89日間、三度目は明治24年（1891）に67日間の旅となりました。明治18年の二度目の西遊は鹿児島までの船旅もあり、交通機関が十分発達していないこの時期の旅は、想像を絶する危険や困難を伴ったようです。

参拝した120の山稜から「霊石」を拝領し、帰郷後これを石棺に収めて「山陵塚」を建設、さらに各地から三百余九十五種の花を収集して「花塚」を築き、村民に毎日巡拝するよう説いたと伝えています。

晩年、居宅裏山裾に「不求庵」と名付けた草庵を造り、多くの文化人との交流や著書・絵画の整理を行ったといえます。

近江国（滋賀県）の名勝地「唐崎の松」が枯死したとの情報を聞き、実生から育てたという「唐崎の松」もあったといいますが、今では建物は倒壊し、当時の新潟県知事からの「千歳幽契」の題字と武井柯亭筆による碑が遺るだけとなっています。



▲不求庵

【にしあいづ物語100選】終了のお知らせ

平成29年5月号より連載がスタートした「にしあいづ物語100選」は、令和8年1月号をもって100選目を迎えることができました。

毎月楽しみにしてくださった皆さん、執筆いただいた皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

次号からは紙面構成を一部変更し、お届けします。

また、物語100選は町ホームページでもお楽しみいただけますのでぜひご覧ください。（問い合わせ先：町公民館 ☎45-3244）



▲詳しくはこちら

今月の表紙

今月の表紙は、3月13日に行われた西会津中学校の卒業式から。卒業生たちの晴れやかな笑顔と少しの涙。心温まるひとときを表紙にお届けします。

卒業生のみなさん、おめでとうございます。

編集後記

ようやく暖かくなって来て春を感じる今日この頃。つい薄着で外出すると、思ったより寒く「まだ早かったかも」と後悔することも。季節の変わり目は油断大敵ですね。皆さんも春のふりをした冬の最後のひと踏ん張りにご注意を！

今月の広報は春っぽさ満載でお届けしています。広報紙をお供に、季節を味わっていただけると嬉しいです。（三留）

